共募目標近し

現在41万円を突破

本年度の共同募金は目標四五万七千円で現在御奉募金七二、〇七六円、戸別募金二二、六〇〇円、戸別募金二二、六〇〇円、合計四八、六八七円六〇円となり新年度にいろ新成績を示しているなお此のほかに年末はがき募付金一〇二、六二八円があるが戸別募金の目標額達成への協力が要望されている。

【社会福祉事務所】

歳末同情袋は八万九千円也

旧臘始めて行われた歳末同情袋は市民の温かい寄付で、合計八九、七二七円八二銭の成績を収めるとともに市並び社会福祉協議会より見舞金が寄付され、この金は、歳末に市並び社会福祉協議会より見舞金として贈られた。

最高は脳溢血

昨年中の死亡率調べ

昭和二十八年中に当市病棟内で死亡率が最も高かつたものは脳溢血であつた。それに次いで結核性疾患、消化器病、結核性髄膜炎、肺炎、心臓病、腎炎、老衰、交通事故、自殺、火災、溺死、中毒、産科、その他の順であるが、これを死亡率で見ると、なお昭和二十三年中に比べ、昭和二十八年中の死亡者は一体どの位高くなつたであろうか、それにつれて、死亡率が高くなつたかが、どれだけ多くの人が死んでいるかを調べて見ると、昭和二十三年中の死亡者は、百一十名近くであつたのに、昭和二十八年中は、四九〇人、六八七人四〇人、六八七人四〇人と、約四倍近くの死亡者数となつている。

【保険課】

昭和28年中病類別死亡調

病類別	昭和23年 死亡数	死亡率	昭和28年 死亡数	死亡率
脳溢血	人 73	16.0	人 54	15.7
結核性髄膜炎	59	12.9	55	15.0
肺炎	103	22.4	29	8.4
心臓病	87	19.0	89	26.9
腎炎	28	6.1	32	9.7
老衰	16	3.4	26	7.6
交通事故	24	5.9	14	4.0
自殺	24	5.3	13	4.0
火災	5	1.1	3	0.8
溺死	40	8.7	100	7.5
中毒	460	100	344	100
産科				
その他				
消化器病				
結核性髄膜炎				
老衰				
脳溢血				

市の社会教育のあり方

実態に即した綜合計畫で合理的な生産人を

市教育委員会では子て当市の〝社会教育のあり方〟についてその根本方針を社会教育委員に諮問中のところ12月末慣重検討の結果次の答申を提出した。それによれば南工業業その他当市発展の要請に応え得る科学的・合理的で生産性の高い実践的市民をつくるにある。

社教委答申

まず社教育振興協議会の結成

一、新津市社会教育の方針

1、社会教育の重要性（要旨）

（前略）学校教育は勿論重要であるが新しい日本を再建するには特に社会教育の振興が欠くことの出来ないことがらである。

経済自立、隠倖就は思想の対立弱化帝政対内対外が新津市に於ても工場勤務に伴う商工業の発達的な発展、稲生産・秋蚕山の増産、農業の改良、畜産・体育・学問等の施設による文化都市にしまた渡の地域は必ずしも思うせぬ目を築くことは何となく困難な課題を解決し難い問題が多くて明るい先罪の民間の間に直筋の通つた民主社会への点の見理想が誠に社会の発展の為に重要な役割の重要性を痛感する次第である。貧困感が強く特に行政の面に於ても自己教育であり、また自己教育は市民相互の間でも自主的に行われなければならない。

2、社会教育は市民相互の間の自主的な教育であり、また自己教育であり、また自己教育は市民相互の間でも自主的に行われなければならない。

3、社会教育は市民の自主的な教育であり、また自己教育であり、また自己教育は市民相互の間でも自主的に行われなければならない。

（後略）

二、新津市社会教育の機構

現況

1、社会教育委員の機構

社会教育委員会は、図書館、公民館、図書館、図書館、図書